

技術発表会を初開催

優秀技術者に油木一真氏

＝山本工業・協力会＝

鉄骨高工の山本工業（山本智章社長）と安全衛生協力会は2日、「2022年度技術発表会」を広島市南区の本社屋で開いた。若手技術者が現場の技術を共有すること

で仕事のやりがいや達成感につながることを目的に溶接技術を競い合った結果、SEIKENの油木一真氏が優秀技術者に選ばれた。

はじめに山本社長があいさつに立ち「技術発表会は溶接技術の向上と継承、人手不足の解消のため初めて開催する。協力会の誰が施工しても満足してもらえる技術力が施工の信頼になる。溶接技術には大切なコツが存在し、そのコツを我が社だけでなく協力会にも伝え、繰り返すことで未来に続く溶接技術をつくりあげたい。さらに喫緊の課題の人手不足の解消には、若手技術者がおもしろいと思う技術を身につけさせたい。きれいな溶

接はやりがいや達成感を生み出す。今回の技術発表会がきっかけになればと思う」と期待した。

発表する技術内容は現場と同じように鉄骨構造物に部材を溶接し取り付ける。アーク溶接による下向き溶接（電流130A）、縦向き溶接（電流100A）、各自15分の持

ち時間で技術を競い合う。

審査は溶接部外観検査基準を参考に、完全溶込み溶接突合せ継手の余盛の高さ・完全溶込み溶接T継手の余盛の高さ、アングercット、ビード表面の不整、ピット・割れなどの表面欠陥を目視などで確認した結果、優秀

技術者に油木一真氏（SEIKEN）、優良技術者に井手之上悠氏（山本工業）、下田英士氏（SEIKEN）が選ばれ、山本社長から賞状と記念品が贈られた。

審査員を務めた吉野孝幸部長は「どの溶接技術も甲乙つけがたく優秀な技術に値する」としたう

えで「経験の差もあるが縦向き溶接に苦勞していた。今日の溶接技術を現場に持ち帰り、仲間でも有し生かしてほしい」と評価した。

優秀技術者に選ばれた油木氏が「山本工業の皆さんと一緒に働きながら技術を身に付け、それが良い結果につながった。これからも技術の研鑽に努めたい」と謝辞を述べた。

最後に安全衛生協力会を代表してSEIKENの松島誠社長が「現場が忙しい中、技術発表会の時間をつくっていただき感謝している。今後も発表会を続けて技術の継承、若手技術者のやりがいにつながる」と閉会の言葉を述べた。



技術発表のもよう



記念撮影